

教育支援部だより

今回のテーマは、感覚統合療法をヒントにした学習支援です。

「感覚統合」という言葉は知っているけど詳しくは分からない…という方、ぜひ読んでみてください。子どもたちの支援方法を考える機会にご活用ください。

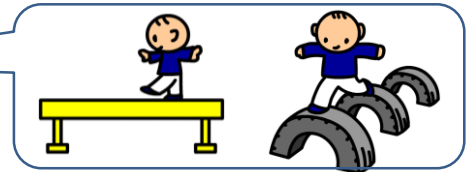
感覚統合とは



様々な感覚によって得た情報を有効に利用できるように組み合わせる脳のはたらき

七つの感覚

- ①視覚 ②聴覚 ③味覚 ④嗅覚 ⑤触覚※
→ “五感”と言われるもの ①～⑤は自覚しやすい感覚
 - ⑥前庭覚：体のバランスをとる感覚（平衡感覚）
 - ⑦固有覚：体の動きを感じとる感覚
⑥と⑦は自覚しにくい感覚
- ※ 触覚には識別系と原始系（防衛系）の働きがあり、識別系は自覚しやすいが、原始系は自覚しにくい。



子どもは感覚を統合しながら成長する

上記の感覚のうち、触覚（原始系）、前庭覚、固有覚は生来的に働いているとされ、これら三つの感覚をまとめて“基礎感覚”と言います。

私たちは生活の中で、七つの感覚※をバランスよく使い（統合し）ながら様々な活動を行っています。そしてその活動が新しい感覚刺激を生み、さらに新しい活動につながり積み重なっていくのです。子どもたちは、そうしていくことでより複雑な行動や対応ができるようになっていきます。

しかし、発達障害があったり、気になる行動が見られたりする子どもたちは、“基礎感覚”自体につまずきがある場合が多く、感覚の統合もうまくできません。“基礎感覚”は自覚しにくいだけでなく周囲からも認識しにくいいため、アンバランスさを抱える子どもたちの大変さはなかなか理解されていないのが現状です。



感覚が統合されて成長していくプロセス

「感覚統合」とは？発達障害との関係、家庭や学校でできる手助けまとめ
(<https://h-navi.jp/column/article/35025964>) より許可を得て転載
(C) 株式会社 LITALICO, LITALICO 発達ナビ

※ 右図のように味覚、嗅覚を省略して五つとすることも多い。五感+前庭覚、固有覚ならば七つ。

感覚のつまずき、アンバランスが招く困り感



一つ一つの感覚につまずきがあるとバランスが保てず、統合することも難しくなります。よって、生活のあらゆる場面で本人や周りの人たちの活動に支障をきたします。聴覚の過敏性※などは困り感の原因が特定できて比較的配慮しやすいですが、“触覚（ここでは原始系）”“前庭覚”“固有覚”につまずきがあっても理解されにくく、困り感につながる行動が単なるわがままととられる場合があります。

【触覚のつまずきが原因】

- たたく、噛む等の自傷行為
 - 触れたものをすぐ口にする
 - 他人に近づきすぎる
- ⇒鈍感なため強い刺激を求める
- 触られるのを極端に嫌がる
 - 帽子、靴下等の着用を嫌がる
 - 爪、髪を切られるのが苦手
 - 服の素材や襟の具合などの違和感、服装のこだわりが強い
- ⇒敏感なため刺激を避ける

【前庭覚のつまずきが原因】

- 姿勢が悪い、落ち着きがない
 - 回る遊具やブランコが好きでなかなか離れられない
 - 文字が書けない、板書が苦手
- ⇒鈍感なため安定しにくい
- 乗り物酔いをしやすい
 - 動く遊具が怖い、嫌い
 - 高い所や不安定な所を怖がる
 - 文字の読み飛ばしが多い
- ⇒敏感なため安定しにくい

【固有覚のつまずきが原因】

- 姿勢が悪い、動きがぎこちない
 - 常に体に力が入っている
 - ぶつかりやすく転びやすい
 - 力加減が調節できず動作が乱暴
 - 動きを模倣することが苦手
 - 手先が不器用
 - 文字がうまく書けない
- ⇒鈍感なため自分の体の位置や動きが把握できず、コントロールが難しい

※ 聴覚の過敏性：掃除機や人の泣き声など特定の音が嫌い。耳ふさぎをする。

感覚統合療法をヒントにした学習支援

最後に、以上のことをふまえた学習支援について紹介します。



指でお絵描き

触覚のつまずきへの支援

砂地に描く、机の上にフィンガーペインティングをする

- 自分の意思で触るため不安が少なく、消せる安心感がある



しっぽ取り

前庭覚のつまずきへの支援

鬼が「しっぽ」を腰につけて逃げ、それを取るために追いかける



- 目的意識を持って意欲的に取り組めるうえ、支援者や友達と関わりながら楽しんで行える
- 追視することで眼球運動のコントロール力がつく

バランスボール

固有覚のつまずきへの支援

バランスボールに乗って揺らしてもらおう

- うつ伏せで床に手をつくところまで前に押しってもらうことで、転んだときに手が出る動きにつながる
- ボディイメージの発達を促す



ボール送り

固有覚のつまずきへの支援

行きは頭上を、帰りは股の間でボールを送る



- 繰り返しの動きで分かりやすい
- 重力に逆らって手足・体を屈曲させることで、ボディイメージの発達を促す

参考文献：木村 順『保育者が知っておきたい 発達に気になる子の 感覚統合』、株式会社 学研教育出版 (Gakken 保育 Books)

川上康則監修『発達の気になる子の 学校・家庭で楽しくできる感覚統合あそび』、株式会社 ナツメ社

秦野悦子監修『親子で楽しめる 発達障がいのある子の感覚あそび・運動あそび』、株式会社 ナツメ社